

朝日環境センター再整備後の余熱利用方針について

1. サンアール朝日の今後について

現在、朝日環境センター（焼却棟）で焼却処理により発生した熱の一部は、余熱利用施設であるサンアール朝日に供給し、プールや浴室で使用する温水の熱源として利用しています。



図1 サンアール朝日の温水プール・露天風呂・寝湯

今後、朝日環境センター（焼却棟）の再整備期間は熱源が確保できないため、サンアール朝日を運営することができません。また、サンアール朝日は竣工から 21 年以上が経過し、継続運用するためには施設全体の改修が必要であり多額の費用を要することが想定されます。そこで、サンアール朝日を含めた、再整備後の余熱利用については、施設の役割、市民のニーズ、社会的動向などを踏まえて今後のあり方を検討する必要があります。



図2 サンアール朝日の劣化状況（配管類）

2. 余熱の利用形態

余熱の利用形態は、図3のとおり整理されます。ごみ処理施設においては発電利用が主流であり、多大な場内消費電力を自ら発電することにより賄うことでエネルギー消費を低く抑え、余った電力は電力会社に売電する場合が多く見られます。また、ごみ処理の過程で発生した温水を熱交換することで冷暖房やプール用の温水利用に加え、発生した蒸気をそのまま外部へ供給し利用する場合があります。

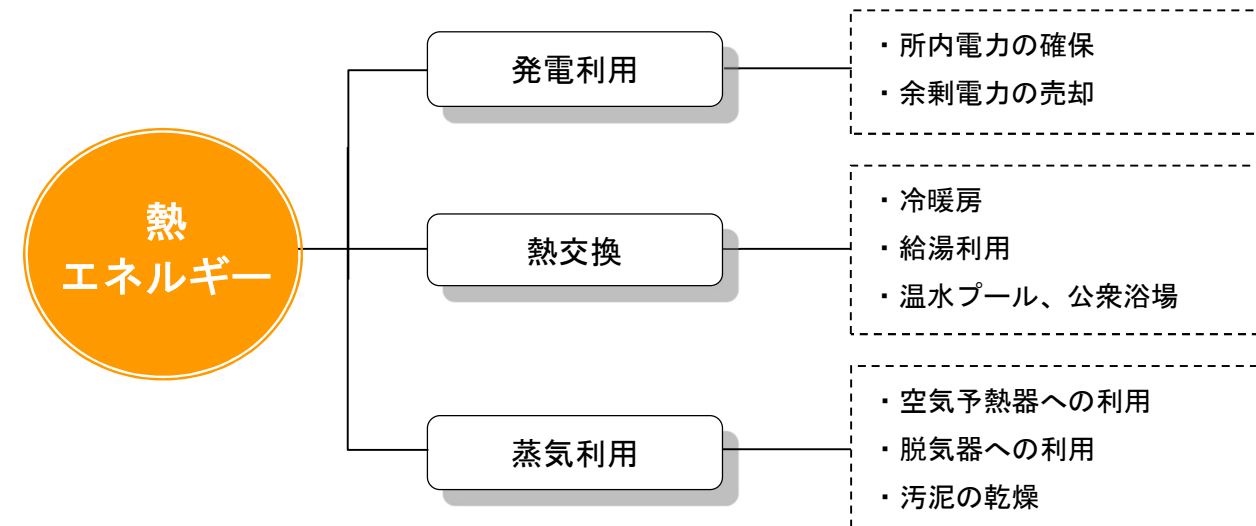


図3 ごみ処理施設における余熱利用形態（例）

3. 朝日環境センター再整備後における余熱利用方針

再整備後の朝日環境センターにおける余熱の利用形態については、ごみ処理経費の削減に向け、発電利用を第一とします。

一方で、近年、ごみ処理施設は災害時の備えが求められる傾向にあります。このため、災害時への備えをはじめとした新たなニーズにも応え得る施設整備を目指します。

以上を踏まえ、再整備後における朝日環境センターの余熱利用方針について、周辺住民の意見を聴取し、施設整備基本計画に反映させることとします。



図4 今治市における施設コンセプト（災害時におけるフェーズフリー化の例）※1

※1 国立研究開発法人 国立環境研究所「災害廃棄物情報プラットフォーム」